

## 2021 年度秋学期「教員アンケート」の結果について

流通経済大学 FD 委員会

### 目次

1. 回答者とその内訳	1
2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか	1
3. 学生の集中や理解を促す取り組みについて	1
4. 前回アンケートで提示した改善策の実施状況	2
5. 今後の改善計画	3
6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案	4
7. 特別な配慮が必要な学生への対応	6
8. 改善要望	7
参考資料（集計数値）	8

## 1. 回答者とその内訳

・2021年度秋学期の教員アンケートには、115名(春学期144名)が回答した。内訳は、専任教員が68名(春79名)、非常勤講師が47名(春65名)であった。すべての学部を通じた回答者の総数は、今年度の春学期と比べるとやや減少し、前年度の秋学期と比べるとやや増えた(107名から115名へ8名増)。ただし、教員の総数は学期によって異なること、毎年春学期の回答者数は秋学期と比べると多くなる傾向があること等には注意しなければならない。

## 2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

・「学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか」という質問には、回答者総数の81.7%(94名、春78.5%113名)が、「とても役立っている」あるいは「概ね役立っている」と回答した。

・役立っていると回答した理由として、特徴的な記述回答(66件)

「アンケートの内容を次期の授業計画に反映できる。また、中間アンケートの結果も進行中の授業計画に即時に反映できるため、役立っている。」

「授業時に積極的に発言する学生以外に、普段物言わない者の声も聞こえます。」

「自由記述が参考になる。」など

・問題点の指摘(33件)

「回答数が少ない・回答率が低い」との言及が20件(役立っているとの肯定的なコメント内での言及も含む)

「匿名なので良い意見も悪い意見も本音が聞ける。ただし、熱心に受けていた学生と不満のある学生からの意見が主で、それ以外の層からの意見が聞けないのはこの仕組の限界かなと思います。」

「大学全体で、学生にアンケートに回答するよう周知してほしい」

「学生に授業やメールで、アンケート協力をお願いをしたにも関わらず、回答数が全体的に少なかった。ゼミなどで全科目のアンケート回答日を設けたほうが良いかもしれません。」など

## 3. 学生の集中や理解を促す取り組みについて

・学生の集中や理解を促す取り組みについては、対面形式で運営する授業も増えたが、前学期までのオンライン授業で蓄積した工夫を挙げる教員が多かった。

「動画の編集(アイキャッチや字幕を入れるなど)を工夫しました。」など動画、映像資料の活用の取組についての言及が34件あった。

「manabaの小テスト機能を用いて、到達度の確認を毎回した。10回分の小テストの得点の合計によって、最低限保証される成績の等級が決まるようにした。コツコツと努力を積み重

ねることにより良い評価が得られるという仕組みが、学生を動機付けるのに寄与した。」と  
いった manaba の小テスト機能の活用についての言及が 15 件あった。

そのほかの取組について次のような記述があった。

「オンライン中は、担当教員とペアワークができるように、動画を作った。」

「Webex 実況生中継にて、学生に質疑応答をさせた。」

「動画資料と文字資料の 2 本立てにし、学生が受動的になりすぎないように注意したが、すべてを動画にしてほしいという意見が目立った。」

「オンライン授業は聞き流すだけにならないように発言の機会を設けるようにした。」

「対面授業ができるようになってグループワークを重視したが、manaba を活用した個別ワークの活用も積極的に行うことで、まずは自分自身の力で考え学習した上でグループワークに取り組むように組み立てた。」

「集中力が続くように、90 分の内、休憩の時間を設けてみました。」

など

また、取り組みを継続するための要望として、次のような記述もあった。

「特定の教室で、あるいは申請次第でクオリティの高いカメラ、動画作成アプリを入れてもらいたい。」

「授業は対面では通常の対面を実施しましたが、オンラインでも教材配信をして、オンラインの方が不利益を被らないようにしました。担当教員は対面授業とオンライン授業と 2 倍の手間になりました。給与面で考慮をご検討頂けますと幸いです。」

など

#### 4. 前回アンケートで提示した改善策の実施状況

・おおよそ改善できたとするコメント 79 件

「前回の結果をうけて、対面授業開始後、ハイフレックスによる同時中継を実施した。多くの学生は対面で参加したが、来校できない学生に対してリアルタイムで授業を提供できた。授業を録画した復習用の動画も提供し、毎回、半数以上の学生のアクセスが確認でき、教育効果があったと考える。」

「前回のアンケート結果では、全体的な学修時間が思っていたよりも少なかった。今年度は全体的な学修時間が増える課題になるように心掛けた。前回よりも、全体的な学修時間は増えたように感じられる。」

「前回の改善策として、オンラインから対面への移行にあたり、事前告知に注意を払いました。manaba やゼミ用の LINE を利用し、〇〇をする予定で進めたいなど方向性を示すことで不安要素は以前よりはとりのぞけたのではないかと思います。」

「前回、学生のレベルの変化をさらに把握し、それに合わせて授業の展開をしていく必要があると書いたが、今回は対面授業が増えたのがそれはかなり改善できたように思いました。」

など

・改善には至っていない、難しいとのコメント 24 件

「コロナ禍による各種対応に追われ、前回提示した改善策に十分に取り組めなかったため、

それらに取り組んでいくことも今後の課題である。」

「動画についての学生の意見は、短い・長いの双方があり、難しいと感じているが、分かりやすさを重視することで、改善していきたい。」

「前回よりさらに改善するよう予習と復習の箇所を明示した。それに即して取り組んでいた学生達は学習を順当に進めていた。一方、コロナ禍の留学生対象の授業では、自国から日本への移動、来日の見通しが立たず自国からアクセスするしかない、アルバイトに追われるなど生活に余裕がない場合なども見られ、改善策の成果が把握が難しい点もあった。」

「発音練習についてはコロナ以前から毎年悩まされていますが、今は対面であっても「大きな声で」と促すことにためらいがあります。CDの音源をまねて読ませることは行ったものの、今回もあまり積極的に取り組めませんでした。」

など

## 5. 今後の改善計画

次のような記述回答が見られた。

「反転授業やアクティブラーニングを積極的に導入していく」

「自ら勉強する姿勢をとることができるよう、自学自習のツールを作っていきたい。」

「オンライン授業で有効だったツールを対面授業に上手く利用し、これまでにない発展した授業にしていきたい。」

「小テスト、簡単なレポート提出をこまめに実施することで、学生の理解度を確認したい。」

「オンライン授業(コンテンツ作り)準備で改めて気づかされた丁寧な説明を、対面授業でも行いたい。」

「オンラインハイブリッド(リアルタイム+オンデマンド)授業に挑戦する。毎回30分はリアルタイム(授業の概略や前回までの質問へのフィードバック、復習を実施)、残りの60分はオンデマンド配信(授業内容の丁寧な説明、主体的な学びのための工夫)とする。」

「インターンシップ(準備)はオンデマンド型から同時双方向型とすることで、授業時間内に学生にアンケートを取る等の取組みを通じて学生の授業への主体的な参加を促す予定である。インターンシップ(報告)は今回の経験を踏まえてより洗練された内容へブラッシュアップしていく。」

「配布する文字資料にイラストなど視覚的に理解できる素材を盛り込んでいきたい。動画にイラストを入れることはすでにおこなってきたが、今回のアンケート結果を見て文字資料にも入れたほうが学生が関心をもちやすいと考えた。」

「アウトナンバーの導入」

「双方向遠隔を取り入れたいと思います。(今回、行おうと思ったのですが、双方向遠隔での時間的制約について相談があったので見合わせましたが...)」

「目下のところ、対面とオンライン授業とで授業の質が同じに保てるように工夫しています。オンライン授業の時は他の方から受けた質問を全員へ名前を伏せてお返事するなどして他学生の存在を感じられるようにしています。」

「1年演習において、学生同士の交流のために互いのネームボードを作成させた。この取り

組みはうまくいったが、次年度はもっと早い段階で実施するとより効果的であると思われる。」

「教員からの教示はできるだけわかりやすく、コンパクトに情報を伝えるように心がけ、その分できるだけ多くの時間を実質的な実習や、学生同士あるいは教員との双方向のやり取りができる時間に当てられるように設計したい。」

「学習意欲の低い学生=提出率の低い学生等に個別に連絡を取る工夫をしてみたい。」

「一部、担当講義が対面形式となるが、ドリル形式の小テストの活用は、継続して出席・平常点の管理に役立てたい。仮に、オンデマンド形式への変更が必要な状況になっても、対応が容易にもなると思える。」

「オンライン授業であっても対面授業であっても、学生の理解度を確認しながら授業をすることが重要だと思っているので、manaba やリアクションペーパーなどを活用して取り組んでいきたいと考えている。」

「全面的な対面授業であっても、講義は復習用としての録画し、manaba で配信したい。」  
など

## 6. 対面授業の教育効果や本学の魅力を高める活用方法の提案

・対面授業の教育効果や本学の魅力を高めるためのオンライン授業の活用については、以下のような提案があった。

・オンライン形式時に活用した manaba の小テスト機能の対面形式時の活用 21 件

「小テスト機能を使用することで、こまめに小テストを実施でき、学生が自身の状況、成績を認識できる点が有益と考える。」

「提出課題のみならず、予習・復習のツールとして「小テスト」を使う。」

など

・動画提供などオンデマンド形式の活用による欠席者への対応、また学生の自主学习(予復習)のサポート 10 件

「オンデマンド配信した授業コンテンツについては、一定の評価を得た。対面授業では、説明を聞き逃したらもう一度聞くのが難儀であるが、オンデマンドコンテンツでは何度も繰り返し視聴し、理解することができたし、途中で挫折しないで最後まで授業に参加できた、という学生からの感想を得た。対面授業でも反転授業を取り入れて事前にオンラインコンテンツ等で予備知識等の説明を実施し、授業後にはキーポイントを復習できるコンテンツ配信は対面授業補完として教育効果を高める手段になるとおもう。」

「秋学期後半のハイフレックス授業は、授業に出れない学生だけでなく、理解のためにもう一度授業を振り返りたい学生にも役立ったようである。ただし、単に公開するのではなく、要望のあった学生のみに公開した。」

「対面授業が始まると、やはり他大学同様、オンライン授業の需要も高いことが分かってきたので、特定のツールというよりは、オンライン授業を効果的に組み合わせることがこの先必要になると想定されます。(15回のうち数回をオンライン授業など)」

など

・オンデマンド形式のために活用した授業動画の入学希望者に向けた活用 10 件

「コロナ感染を心配されるご両親から、外出を止められている学生に対して、ハイブリッド型の授業方法ができると、そのような学生も入学を決意してもらえるのではないかと思います。」

「潜在的な入学志願者に向けて、高校生向け模擬講義の中継をされるのも良いかもしれません。」

「授業動画は引き続き模擬授業としてアップしていくことがよいと思う。また、各学科でどのような講義があるのか特徴を示すことができるよう、通常の 20 分程度の動画ではなく各教員の授業で 2 分程度のものをアップしていくのもよいかもしれない。」

など

・その他

「余り知られていませんが、manaba にある新聞検索は学生の学習にとっても役立ちます。過去からの新聞も検索できますし、今日の新聞も読めます。朝日新聞だけでなく、経済系で日経新聞も検索できると授業で役立ちます。対面では、学生発表の時も教員が教材提示の時にもネットの URL を持参すれば関連する社会問題等のニュースや政府のデータなどを簡単に提示できるので、紙を配付するだけの教材よりも情報量が増えますし、カラーで学生が観られる利点があります。」

「オンライン授業は、学生に授業時間外に自学自習する機会を与えているように思います。しかし、オンライン授業では、学生一人一人の学習態度を直接的に観察することができないのが残念です。やはり対面とオンラインの両方を効率よく実施するのが良く、そのための工夫が必要と考えています。」

「学期の前半、オンライン授業中に Webex のブレイクアウトを多用しました。学生がグループワークの疑似体験を得ることができると同時に、いつも同じ仲間だけではなく、色々なクラスメートとコミュニケーションをとる、訓練になりました。学生にとっては、緊張する状況ではありますが、教科書が目指している本来の会話状況設定に近い体験ができたと思われれます。」

「Zoom と Miro の併用使用は、教育効果を高める手段として有効だと思います。」

「slide というソフトが発言をいざなうために有効かもしれません。」

「対面でないならばキャンパス単位で学生を分ける必然性はない。両キャンパス併せて「3 コマ」で考えれば、学生目線は履修する日時を選択肢が増えるし、他キャンパスの学生と交流する機会が持てるだろう。」

「私は、あくまでも、オンラインは非常事態において対面講義が出来ない場合の補完物だと認識しているので、今後、状況が改善していった場合は、どんどん使用されなくなっていくのがベストだと思っている。ただ、対面せずに事足りるものには、積極的に利用していけば良いと思う。一番心配なのは、今後、怠惰な学生が移動をせずに講義を聴講できることに味をしめ、それを悪用することである。決して安易に学生にオンライン聴講を許可することだ

けは絶対に避けなければならないと思っている。」

「WEBEXなどのオンラインツールにより、遠隔地の方と繋ぐことが可能である。地方在住で、今までゲストスピーカーとして招聘できなかった方に講義をして頂けると考える。」  
など

## 7. 特別な配慮が必要な学生への対応

・特別な配慮が必要な学生への対応としては、「オンデマンドで対応した」13件、「課題の締切を延長した」3件であった。

「基礎疾患があり特別対応の学生にはオンデマンドで対応した。うまく機能した。」

「最初の2回ほど出席し、以降欠席が続く学生が数名いた。また、リアクションシートや課題レポートは全く出さずに出席のみする学生もいた。その学生にだけ個別にアプローチするのはどんなものかと考え、クラス全体に複数回通知した(結果、状況は変わらず)。個人への促しと他学生との公平性のバランスをどうとるのが課題。」

「日本語力の低い留学生については、個別対応を余儀なくされる状況です。やはり、入学前の段階で日本語の一定レベルの担保は不可欠だと考えます。」

「四肢および発語に障害のある学生に対して、学生の筆記の時間を長く取るや、当該学生が発言をしているときは、発言が終わるまで必ず待つといった工夫を行った。演習ではあったが、他の学生達と変わりなく授業に参加できており、工夫はうまく機能したと思われる。」

「課題への取り組み期間を長めに設けることで、課題に対応するための時間的猶予を作った。」

「日本に帰ってこられない留学生、持病の関係で登校が難しい学生の方がおりました。どちらの場合も、対面授業をハイフレックス形式にし、課題の提出も適宜、締め切りを延ばすなどして対応しました。当該の学生たちからは、好意的な意見を頂きました。」

「動画だけでなく資料の文字情報や画像情報をできるだけ多くし理解をすすめた。おおむね良好。」

「英会話の対面授業にハイフレックスで参加する学生を担当したが、ハイフレックスに不馴れなことに加えて、授業参加情報等をメール連絡しても応答のない当該学生への個別対応に苦慮した。授業資料や試験等、対面授業用とは別に準備する必要と、それを行うための時間を授業内に設ける必要があった。また、授業中に音声・画像等の不具合の申し出があり、その対応のため授業進行に影響が出てしまったこともあった。ハイフレックスの活用法について独力では解決できないことが多かったので、語学授業に対応する初心者用マニュアルと説明会等があれば大変有難かった。」

「日本語のやり取りが苦手な留学生には、英語でのレポート提出を認めたら、提出率がよくなったようだった。英語氏名であれば留学生だとすぐにわかるが、韓国からの留学生の場合、会って初めてわかる。日本語能力が低い学生のリストなどがあるとありがたい。」

「聴覚障害のある学生がおり、動画に字幕を付けるなどの作業が大変だった。字幕の誤字変換などを、修正することができず、メールで個別に対応するなどしたが、PC関係の機能について詳しくないので、問い合わせのできる窓口や、講習会などを行っていただければ有難いと感じた。」

「申請により自宅で受講したい学生がいたため、ハイブリッド型で授業を実施しました。Zoom を用いて、学生の発表を共有したり、パソコンをグループワークの席に持っていくことで、対面授業で参加している学生と交流できる環境を整えました。最後まで欠席せずに参加していたため、同じグループの学生の協力もあってのことですが、グループワークも可能なのだと実感いたしました。」

「「国際交流課」とは連携を図りつつ大変お世話になった。それにより参加度の低い受講生の事情がわかってきたので、今後も継続的な協力を得ながら見守り、学生達の潜在的な能力を伸ばすことに努めたいと思う。」

「個別にメールを送り、学習の進捗をみるようにした。また学習が困難な学生については教育学習支援センターの所員の先生方にお力添えいただくようにした。」

「精神疾患等で集団に居づらい学生にとってはハイブリッド形式は継続が必要だと感じました。ただ、その匿名性を保持するには課題があります。今回は通学にも困難を感じている学生も対象であったため複数人いたので、精神疾患を抱える学生もあまり気にせず受講できたようです。今後通学に困難を感じている学生はハイブリッドでの授業対象にならないとなると、特別な配慮を必要とする学生の匿名性を保持する対策が必要です。とはいえ、ハイブリッド形式は教員側には多大な負担ではあります。」

「精神障害の学生には本人専用の manaba コースを設定し、受講と課題の提出に柔軟に対応しました。」

「ベトナムからの留学生に対しては漢字表記だけでなく、読み方を書いて分かりやすく表記した。」

など

## 8. 改善要望・提案

### ・授業アンケートについて

「授業時間以外の学習に対する学生の自己評価(例:授業の予習と復習に時間をかけてがんばった、授業よりもクラブ活動に力を入れた、アルバイトで社会勉強はした、あまり勉強しなかった)でもいいのかと思う。」

「未回答の場合には、manaba に表示され、講師が確認できるようになるのが望ましい。」

「中間、期末と2回必要か?」

など

### ・授業運営環境について

「教室内の書画カメラをもちいた動画作成アプリをいいものにしてもらいたい。」

「PC に web カメラを設置しただけの簡易的な設備ではなく、教室の天井にカメラを設置し教室全体の映像を取めることができるしっかりとしたハイブリッド設備を整えてほしい。」

など

以上



参考資料（集計数値）

1. 回答者とその内訳

●学部別の回答者数

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋
経済学部	41	25	44	28
社会学部	37	34	43	34
流通情報学部	24	17	20	19
法学部	21	15	19	16
スポーツ健康科学部	22	16	15	18
無回答	4	0	3	0
	149	107	144	115

●専任・非常勤別の回答者数

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋
専任	92	71	79	68
非常勤	56	36	65	47
無回答	1	0	0	0
	149	107	144	115

●専任教員の回答者数（学部別）

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋
経済学部	24	17	23	15
社会学部	19	18	19	16
流通情報学部	17	13	16	14
法学部	13	9	11	9
スポーツ健康科学部	18	14	10	14
無回答	2	0	0	0
	93	71	79	68

●科目区分別の回答者数

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋
専門科目	84	63	82	69
教養科目	65	44	59	45
無回答	0	0	3	1
	149	107	144	115

2. 学生アンケートが自身の取り組みの振り返りに役立っているか

	2020年度春	2020年度秋	2021年度春	2021年度秋
とても役立っている	29	15	23	13
概ね役立っている	94	71	90	81
どちらとも言えない	23	15	21	17
あまり役立っていない	3	6	10	3
全く役立っていない	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0
	149	107	144	115

